

正 信 念 仏 儻 18

■龍樹讚①

釈迦如來楞伽山
為衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見
宣說大乘無上法
証歡喜地生安樂

釈迦如來、楞伽山にして、
衆のために告命したまはく、南天竺（南印度）に
龍樹大士世に出でて、
ことごとくよく有無の見を摧破せん。
大乗無上の法を宣説し、
歡喜地を証して安樂に生ぜんと。

現代語訳

釈尊は楞伽山で大衆に、「南インドに龍樹菩薩が現れて、有無の邪見をすべて打ち破り、尊い大乗の法を説き、歡喜地の位に至って、阿弥陀仏の浄土に往生するだろう」と仰せになった。



☆龍樹菩薩（西暦150～250年頃）

南インドに生まれる。生涯を知る資料はほとんどない。鳩摩羅什訳と伝わる『龍樹菩薩伝』も誇張伝説が多い。初期大乗經典の『般若經』に説く智慧の世界を空思想や縁起思想によって解明した。中国・日本では「八宗の祖師」*1と仰がれる。七高僧の第1祖とされ「龍樹菩薩」、「龍樹大士」と尊称される。浄土真宗において重要な聖教は、『十住毘婆沙論』「易行品」、『十二札』。

○釈尊の懸記

われらの内証智は妄覚の境界にあらず。如來滅世の後、護持してわがために説き、如來滅度の後、未来まさに人あるべし。大慧よ。汝あきらかに聽け。人あり。わが法を持せん。南大国の中に大徳の比丘あり。龍樹菩薩と名づく。よく有無の見を破して人のために、わが法大乗無上の法を説き、歡喜地を証得して安樂国に往生せん。（『入楞伽經』）

*1 八宗とは、平安時代までに日本に伝わった仏教の八つの宗派。俱舍・成実・律・法相・三論・華厳の南都六宗に、天台・真言を加えたものであるが、転じてすべての仏教宗派の意となった。龍樹を「八宗の祖師」と言う時は、龍樹が大乗仏教のすべての宗派の祖師という意味。

『高僧和讃』

南天竺に比丘あらん 龍樹菩薩となづくべし
有無の邪見を破すべしと 世尊はかねてときたまふ

有無の見

有見と無見のことで、ともに誤ったものの見方であるから邪見ともいう。

有見…世間および、我の常有を執する見解

無見…世間および、我の断無を執する見解

『雜阿含經』

もし先来より我あらばすなはちこれ常見なり。今において断滅せばすなはちこれ断見なり。如來は二邊を離れて中に処して説法す。

有見（常見）と無見（断見）とは、いずれも誤った見解であると否定されたのが龍樹菩薩。あらゆるものには実体（自性）がない → 空思想

※空の原語は梵語「シューニヤ」で、「～を欠いている」

法然聖人御法語

聖道門の修行は、智慧をきわめて生死をはなれ、淨土門の修行は、愚痴にかえりて極楽にうまるとするべし。

『親鸞聖人御消息』

故法然聖人は、「淨土宗の人は愚者になりて往生す」と候ひしことを、たしかにうけたまはり候ひしうへに、ものもおぼえぬあさましきひとびとのまゐりたるを御覽じては「往生必定すべし」とて、笑ませたまひしをみまゐらせ候ひき。

「大乗」とは

大きな乗り物の意。小乗に対する。自利よりも広く衆生を救済するための利他を実践し、それによって仏となることを主張するところに特徴がある。

※ここで「大乗無上法」とは、阿弥陀仏の第十八願を指す。

「歡喜地」とは

不退転地のこと。仏道修行に対して後戻りしない位を「不退転地」という。

『教行信証』「行巻」

真実の行信を獲得すれば、心に歡喜多きが故に、これを歡喜地と名づく。